

## 5. 協定、顕彰

### 5.1 学術交流協定

大学間学術交流協定締結一覧（平成31年3月31日現在）

相手国	機関名	締結年月日	関係部局
チェコ	チェコ工科大学プラハ校	平成28年5月9日	サイバーサイエンスセンター、 医学系研究科、医工学研究科

### 5.2 協力協定

協力協定締結一覧（平成31年3月31日現在）

海外

相手国	機関名	締結年月日	協定名
ドイツ	シュトゥットガルト大学 高性能計算センター	平成21年4月1日	研究協定
ドイツ	ドイツ気象庁	平成21年6月23日	共同研究に係る包括協定
ドイツ	ジーゲン大学 情報メディア技術センター	平成26年3月26日	研究協定

国内

機関名	締結年月日	協定名
東北六高専 (八戸、一関、仙台、秋田、鶴岡、福島)	平成23年4月1日	学術交流に関する協定

## 5.3 顕彰

### サイバーサイエンスセンター顕彰

サイバーサイエンスセンターを利用し顕著な貢献があった方や、長年にわたり本センターの運営に貢献した方などに対する顕彰制度を設けており、平成30年度は、国立情報学研究所の安達淳教授、本学の河野裕彦教授、鈴木陽一教授に功労賞を授与しました。

安達教授は、平成26年度及び29年度に行われたサイバーサイエンスセンター外部評価委員会委員長として、本センターの運営・取組に対し、適切な指導・助言をいただきました。また、本センター大規模科学計算システム全国共同利用連絡会議の構成員としても、長年にわたって本センターの発展のセンター運営に多大な貢献をされてきました。

河野教授は、平成22年度から継続的にサイバーサイエンスセンターと共同研究を実施し、三次元可視化システムなどを使って分子シミュレーション技術の高度化に取り組み、高度利用技術に関する研究開発において多くの成果を生み出しました。あわせて、そこで得られた知見はセンターの大規模科学システムのシステム設計にも活かされており、同システムの高度化にも多大な貢献をされてきました。

鈴木教授は、昭和62年から平成元年6月まで専任教官として、それ以降は兼任教官として本センターを支えてこられました。また、組織運営に関する重要事項を審議するための運営委員会構成員として、適切な助言・指導を行うなど、長きにわたりセンターの管理・運営に多大な貢献をされてきました。

表彰式は、平成31年1月30日（水）本センター大規模科学計算システム全国共同利用連絡会議の中で行われ、曾根秀昭センター長から安達教授、河野教授、鈴木教授へ表彰状が手渡されました。



鈴木教授      河野教授      安達教授